

# 平成21年度事業報告

自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日

## ・展覧会

### 1. 第37回「日本の書展」直轄展

#### (1) 関西展

会 期 平成21年5月28日(木)～5月31日(日)

会 場 大阪国際会議場(3階イベントホール)

主 催 (財)全国書美術振興会 産経新聞大阪本社

後 援 文化庁

協 賛 (社)日本書芸院

関西展の出品数は、巨匠14点、代表81点、委嘱35点、招待358点、秀拔選876点、合計1,364点、会期中の入場者数は4,884名だった。産経新聞社の紙面協力も得て、第37回展の立ち上がり会場として質量共に充実している。

会期初日の5月28日(木)12時30分から、リーガロイヤルホテル3階「光琳の間」において、開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者・招待者合わせて463名の出席があった。

レセプションでは、当会津金孝邦理事長から主催者代表挨拶、産経新聞大阪本社事業局長 浜見良樹氏から共催者挨拶があった後、当会の榎倉香邨顧問の書家代表挨拶へと続き、尾崎邑鵬顧問の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、14時に栗原蘆水常務理事の閉会挨拶によって終了した。

#### (2) 中部展

##### 第1会場

会 期 平成21年6月3日(水)～6月7日(日)

会 場 愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター8階)

##### 第2会場

会 期 平成21年6月2日(火)～6月7日(日)

会 場 名古屋市博物館(3階ギャラリー)

主 催 (財)全国書美術振興会 中日新聞社

後 援 文化庁 愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市 各県市教育委員会  
東海テレビ放送

協 賛 (社)中部日本書道会

中部展の出品数は、巨匠14点、代表81点、委嘱14点、招待128点、秀抜選706点、合計943点、会期中の入場者数は2会場合わせて6,254名だった。これは、中日新聞社の紙面ならびに東海テレビ放送の放映の協力が大きいと思われる。

35回展からの展示数の大幅な増加により、今展も愛知県美術館ギャラリーと名古屋市博物館の2会場開催としたが、これも定着し、1日で2会場を行き来する入場者の声が多く聞かれた。

6月3日(水)18時から、名古屋東急ホテル3階ヴェルサイユの間において、開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者合わせて355名の出席があった。

レセプションでは、当会津金孝邦理事長から主催者代表挨拶、中日新聞社取締役顧問 小山勇氏から共催者挨拶があった後、当会の黒野清宇顧問の書家代表挨拶へと続き、樽本樹邨理事の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、19時30分に終了した。

### (3)東京展

会 期 平成21年6月11日(木)～6月21日(日) 16日(火)は休館日  
会 場 国立新美術館  
主 催 (財)全国書美術振興会 (株)共同通信社  
後 援 文化庁

東京展の出品数は、巨匠14点、代表81点、委嘱32点、招待543点、秀抜選1,039点、東京展合計1,614点、他展の委嘱(関西展委嘱35点・中部展委嘱14点・九州展委嘱11点)も加わり、総展示数1,769点で当会としては最大の展示数である。会期中の入場者数は11,240名だった。

6月11日(木)12時30分から、ホテルオークラ東京本館1階「平安の間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者・招待者合わせて525名の出席があった。レセプションでは、当会津金孝邦理事長から主催者代表挨拶、(株)共同通信社代表取締役専務 坂田茂氏から共催者挨拶があった後、文化庁文化部長 清木孝悦氏から来賓代表の挨拶を頂いた。続いて、当会の梅原清山顧問の書家代表挨拶へと続き、元在スペイン日本国特命全権大使 石井亨氏の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、14時20分に終了した。

### (4)九州展

会 期 平成21年6月30日(火)～7月5日(日)  
会 場 福岡県立美術館  
主 催 (財)全国書美術振興会 西日本新聞社  
後 援 文化庁

九州展の出品数は、巨匠14点、代表81点、委嘱11点、招待87点、秀抜選146点、合計339点、会期中の入場者数は1,845名だった。西日本新聞社の紙面協力を得ている。

会期初日の7月4日(土)12時30分から、ホテル日航福岡3階「都久志の間」において、開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者合わせて82名の出席があった。

レセプションでは、当会津金孝邦理事長から主催者代表挨拶、西日本新聞社取締役営業本部長 樋谷忠貢氏から共催者挨拶があった後、当会の栗原蘆水常務理事の書家代表挨拶および発声による乾杯を行い、祝宴に入り、14時に終了した。

全展共通の前回からの試みとして、入場者数や客層を広げるため、現代書壇巨匠の出品作品をはがきにして来場記念品として1枚ずつ贈呈しており、今展も行った。

前回とは異なり、はがきをモノクロ刷りからカラー刷りにし、来場者は1枚を選ぶことができるようにした。来場者が皆サンプルのはがきを1枚1枚じっくりと見ながら時間をかけて選択し、持ち帰っていた。

合計贈呈枚数は約16,600枚。

また、今回から巡回展図録(現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱作品の187点を掲載)をモノクロ刷りからカラー刷りにした。

## 2. 第37回「日本の書展」巡回展

現代書壇巨匠と現代書壇代表の95点については、関西展、中部展、東京展、九州展の直轄4展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方9カ所を巡回した。

第37回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地		地元主催新聞社	会場	会期	地元作品数	入場者数
1	富山	富山市	北日本新聞社	富山県民会館美術館	21.7.9~7.13	220	1,480
2	島根	松江市	山陰中央新報社	島根県立美術館	21.8.26~8.30	300	1,596
3	栃木	宇都宮市	下野新聞社	福田屋ショッピングモール宇都宮イターナルパーク店	21.9.2~9.7	309	3,190
4	青森	青森市	東奥日報社	青森県立美術館コミュニティギャラリー	21.9.11~9.16	16	1,318
5	広島	広島市	中国新聞企画開発	福屋広島駅前店	21.10.8~10.13	709	24,498
6	岡山	岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階葦川会館	21.10.21~10.26	572	4,920
7	奈良	奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	22.2.3~2.7	271	3,268
8	長野	長野市	信濃毎日新聞社	長野県信濃美術館	22.3.12~3.15	215	1,623
9	茨城	水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	22.4.17~4.22	294	1,858

### 3. 在外公館作品寄贈および在外公館寄贈書作品展

名 称 在外公館寄贈書作品展  
会 期 平成21年12月8日(火)～12月13日(日)  
会 場 東京銀座画廊・美術館7階  
主 催 (財)全国書美術振興会  
後 援 外務省

当会の設立目的の一つである『書美術の国際交流』の主旨を踏まえ、日本を代表する書作品を寄贈し、在外公館を通じて世界各国に日本の伝統文化を広め、相互理解推進に寄与しようとする目的で、今回世界の62の日本国在外公館に書作品を寄贈する企画を実施した。

平成20年12月に、「日本の書展」の現代書壇巨匠、現代書壇代表、委嘱(当会役員かつ日展委嘱または日展委嘱予定者)に寄贈依頼をしたところ、105名の承諾を得ることができた。その後約1年間をかけて、外務省を通して各在外公館の作品への要望など折衝を重ね、先生方には作品の制作に取り組んで頂き、作品搬入、写真撮影、作品集制作へと進んだ。

当初は寄贈のみを計画していたが、せっかくの作品を寄贈前に国内で披露しようということになり、平成21年12月7日(月)東京銀座画廊美術館において、外務省の幹部、全国書美術振興会の役員、寄贈書家等、関係者の集まる中、寄贈書作品105点の内覧会・贈呈式が行われ、それを皮切りに「在外公館寄贈書作品展」を開催した。

贈呈式では、当会津金孝邦理事長から主催者代表挨拶を行い、同じく津金理事長から吉良州司外務大臣政務官へ寄贈作品目録を贈呈した。また、吉良外務大臣政務官から外務省代表の挨拶があった後、同じく吉良外務大臣政務官から当会へ岡田克也外務大臣の感謝状が贈られ、栗原蘆水常務理事が寄贈書家を代表して授与した。

その後、福山哲郎外務副大臣のメッセージが鈴木量博在外公館課長により代読され、来賓・当会役員紹介へと続いた。外務省からは他に、河相周夫大臣官房官房長、門司健次郎広報文化交流部長、兒玉和夫外務報道官、川村泰久参事官(報道・広報・文化交流担当)、白石蔵人外務大臣政務官秘書官、そしてこれまで書美術の国際交流にご協力いただいた田島高志元カナダ大使、荒船清彦元スペイン大使、平林博元フランス大使にもご出席いただいた。当会からは、犬養康彦会長、梅原清山顧問、榎倉香邨顧問、尾崎邑鵬顧問をはじめ多くの寄贈書家、役員が出席し、その他関係者も含め約100名が参列する中、作品贈呈式は滞りなく執り行われた。

贈呈式後、同会場において行われた懇親会では、榎倉香邨顧問が寄贈書家代表挨拶と乾杯の発声を取り、作品に囲まれて終始和やかに交歓の時を過ごした。会期中約1000名の来場があった。

作品寄贈、展覧会開催に伴い、英訳付き・オールカラー刷りの「在外公館寄贈書作品集」を制作、展覧会場では一般販売も行った他、外務省・各在外公館・国際交流基金に配布され、日本の書の国際文化交流の一つとして活用される。

作品は平成22年2月9日に外務省に引き渡し、順次各在外公館に届けられる。

## ・機関誌および書美術に関する出版物等の刊行

### 1. 図録の制作

(1) 第37回「日本の書展」巡回展 (直轄展用)	5,200冊
(2) 第37回「日本の書展」関西展	1,700冊
(3) 第37回「日本の書展」中部展	1,240冊
(4) 第37回「日本の書展」東京展	2,340冊
(5) 第37回「日本の書展」九州展	620冊
(6) 第37回「日本の書展」巡回展 (地方展用)	1,400冊
(7) 在外公館寄贈書作品集	3,500冊

### 2. 展覧会来場者配布用作品はがきの制作

全展共通の試みとして、現代書壇巨匠の出品作品をはがきにし、入場招待券を持参した来場者に1枚ずつ配布することによって、入場者数や客層を広げるなどの集客効果を上げた。贈呈枚数は約16,600枚。

### 3. 機関誌「書美術」の刊行

会報「書美術」第26号を刊行、第38回「日本の書展」出品依頼者、文化庁関係者、外務省関係者、美術館関係者、日本芸術院会員、新聞社等に配布した。  
刊行数は5,200枚。

### 4. ホームページの制作

「日本の書展」開催に合わせて、随時更新している。  
<http://shobi.or.jp/>

## ・書美術功労者の顕彰

日本芸術院賞を受賞された小山やす子参事の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

以 上